

予算総額 89億5010万円4千円

【予算総額の内訳】		(前年比)
一般会計	48億2244万3千円	(3.8%減)
特別会計		
住宅新築敷金等貸付	5482万8千円	(15.3%減)
土地取得	1060万5千円	(0.9%増)
国民健康保険	18億171万9千円	(21.7%増)
老人保健	19億9655万8千円	(0.7%減)
居宅介護サービス等事業	2570万3千円	(28.5%減)
企業会計(水道)	2億3824万8千円	(0.2%減)
合計	89億5010万4千円	(1.1%増)

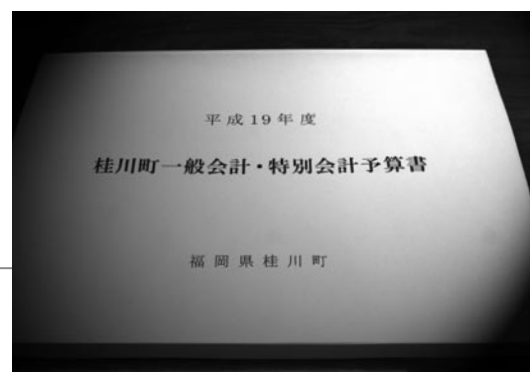
平

成19年度予算が、3月の第2回桂川町議会定例会で決まり、4月から始動します。一般会計と特別会計・企業会計を合わせた予算総額(当初予算)は、89億5010万4千円で前年度と比べると1.1%減です。国の「三位一体の改革」等により、本年度も昨年に引き続き、大幅な歳入減が見込まれるため、事務・事業全般の見直しを行い、緊縮の予算編成が行われています。

今後も徹底した行財政改革を推進し、限られた財源で効率的な行財政運営を行います。

平成19年度

4年連続緊縮予算 スタート



一般会計予算

一般会計予算は前年度比3.8%減の48億2244万3千円で、4年連続の緊縮予算となっています。

歳入予算

歳入予算は、町独自で確保できる「自主財源」と国・県からの交付金や借入金等による「依存財源」に分かれ、その比率はおよそ3対7です。自主財源の中心を占める町税は、所得税からの税源移譲の関係で4.1%の増となっています。依存財源の約6割を占める地方交付税は、前年度比3.7%減(約7千万円の減)です。

歳出予算

歳出予算を目的別に見ると、高齢化の進展などを反映して、民生費の総予算に占める割合が33.9%と突出しています。

今後も、少子・高齢化が続くと予想されており、ますます民生費の割合が大きくなると予想され、そのことが小規模団体の財政状況をさらに厳しい状況に追い込むこととなると予想されます。

桂川町の平成19年度の予算編成は、総体的には歳出に比べ歳入が少ないため、歳入・歳出のバランスを計るため、私たちの家庭に置き換えると、貯金に当る基金積立金を2億5千万円取り崩し、編成が行われています。

(左図参照)